

日・IRENA共催セミナー
「世界の再生可能エネルギー事業の展望と課題～アジアとアフリカから」
木原外務大臣政務官による開会挨拶

1. 冒頭（再生可能エネルギーの重要性の高まり）

- 外務大臣政務官の木原誠二でございます。セミナー「世界の再生可能エネルギー事業の展望と課題～アジアとアフリカから」の主催者として、皆様のご参加を心より歓迎いたします。
- また、共催者である国際再生可能エネルギー機関（IRENA）には、このセミナーの準備にあたってご尽力頂いたことに御礼を申し上げます。
- 再生可能エネルギーの普及はエネルギー安全保障のみならず、気候変動対策、低炭素社会、エネルギー・アクセス等の観点から、益々重要となっています。
- 日本でも、東日本大震災以降、再生可能エネルギーの導入促進が焦眉の課題となっており、安倍総理も、先の国会演説において、「再生可能エネルギーの最大限の導入を進めていく」と表明されました。
- 自然エネルギーなどの代替エネルギーへの転換を図っていくことは世界の主要な課題であり、私自身も国際社会における日本の取組を主導していく決意です。

2. 再生可能エネルギーに対しての我が国の実績

ご列席の皆様、

- 私は、外務大臣政務官として数多くの外国政府要人とお会いした際、我が国の優れた再エネ・省エネ技術に対する諸外国からの高い期待を感じました。

- 例えば、トリニダード・トバゴからは、これらの分野において日本の技術を取り入れたいとの要望が寄せられました。また、ソロモンからは、太陽光発電システムの導入に関する支援に対して謝意が表明されました。
- 実際、日本は、その優れた技術も活用して、途上国向けODA支援や人材育成等、様々な支援を行っています。
- 例えば、2012年までの5年間で、日本のエネルギー分野のODAは、OECD・開発援助委員会諸国中トップであり、そのうち、再生可能エネルギー分野の支援は約4分の1、約23億ドルに上っています。
- また、人材育成では、本日モデレーターを務めていただく山口馨研究理事が所属される日本エネルギー経済研究所を通じ、過去9年間で約20カ国を対象に約900人の研修生を受入れ、約100人の専門家を派遣しています。
- 日本は、これまで蓄積してきた再エネ分野における技術・知見をフル活用して、相手国と我が国の双方に利益をもたらす協力が可能と考えます。
- 国際場裡においては、日本は、再生可能エネルギー分野の国際協力の中心にあるIRENAを財政面や人材育成面で支援しています。本日の国際セミナーも、また、3日から昨日にかけてアフリカと大洋州島嶼国の方々13名を対象に実施した日IRENA共催の研修事業も、その一環です。
- また、日本は、この度、2015年IRENA総会の議長として立候補し、先月、コンセンサスにて指名をうけたところであり、このことは、日本がIRENAを重視していることの証左です。

3. 再生可能エネルギー普及に向けて

ご列席の皆様,

- 日本を含む各国はこのように再生可能エネルギーの普及及び持続可能な利用促進に向けて努力していますが、まだまだ行うべきところはあります。
- 国連の「万人のための持続可能なエネルギー（S E 4 A L L）」イニシアティブでは、2030年までの普遍的なエネルギーへのアクセス達成とともに、世界全体での再生可能エネルギーのシェアを倍増させることが目標として掲げられています。
- その達成には、公的セクターの活動だけ、また、優れた技術だけでは不十分です。実際の成果につなげていくためには、民間セクターによる投資、魅力のある市場の形成、また官と民が連携することが重要なのです。

4. 本日の国際セミナーの意義

- このような問題意識に基づいて、本日、IRENA、アフリカ開発銀行、アジア開発銀行の協力を得て、国際セミナーを開催する運びとなったことを大変嬉しく思います。
- 本日のセミナーでは、再生可能エネルギーの普及促進に向け、アフリカやアジア大洋州島嶼国市場を中心に、各地域のポテンシャルや普及にあたっての課題、ファイナンスや技術を含めた民間セクターに対しての期待など、実際的で役に立つ知見が共有されましょう。
- また、このセミナーには、先に触れましたアフリカや大洋州島嶼国からの研

修生の方々にも参加いただいております。このセミナーは研修生の方々にも更なる洞察をもたらすはずで

- また、本日は日本の民間企業の方々も大勢ご参集いただいております。セミナーの後にはレセプションもございますので、新しい人的ネットワークの構築の機会にもなればと考えております。

5. おわりに

- 最後に、このセミナーにおいて各出席者から多様な経験・知見が示され、有意義な議論が行われるよう期待します。
- 外務省としては、関係諸国やIRENAをはじめとする国際機関と協力しながら、世界における再生可能エネルギー普及のために引き続き取り組んでいく所存である旨申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

(了)